

## 『生育は遅れ気味も回復の兆し』

### 1. 水稻の生育状況(あきたこまち)

「あきたこまち」の葉齢からみた生育は、依然として昨年比で『3日程度の遅れ』  
 平年比では『7日程度の遅れ』であり、田植え日等により『圃場間での生育差が大  
 さい』傾向が続いておりますが、上位葉の葉姿や葉色等からみた生育は多くの圃場で回  
 復傾向となってきました。また、その他の品種も概ね同様の傾向となっておりますの  
 で、各自の圃場状態を見回り、以下を参考に今後の管理を行なってください。

水稻定点調査圃の生育状況(6月27日)

品種(平均)	草丈(cm)		茎数(本/m <sup>2</sup> )		葉齢(葉)		SPAD	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
あきたこまち	32.2	41.8	249	395	8.0	9.3	42.8	45.5
(慣行)	31.6		189		7.7		41.6	
(側条へ-ス等)	32.8		300		8.2		43.8	
前年比	82%		74%		-0.6 葉		99%	
平年比	77%		63%		-1.3 葉		94%	
たつこもち	35.1	43.5	250	412	8.2	9.1	43.9	45.7
きぬのはだ	33.6	43.4	345	420	8.4	9.5	42.5	42.6
ときめきもち	35.8	42.3	327	422	8.1	9.3	43.6	43.9

### 2. 今後の技術対応

#### 1) 中干し

多くの圃場で生育が遅れており、株が十分に開帳しきれていない圃場も見受けられま  
 すが、田植え時に側条肥料を施用している圃場や、もち品種等では、過剰分けつ気味の  
 圃場も見られておりますので、圃場を確認しながら葉齢9葉を目安に中干し・溝切り  
に入ってください。

【中干しの効果】: ①無効茎の抑制 ②根の健全化 ③田面の硬化 等

#### 2) 倒伏対策(出穂25~10日前)

中干し後でも「葉色が濃い」「茎数過剰」等により倒伏が心配される圃場は、つぎの薬剤で  
 対応してください。

ロミカ粒剤1成分 [2~3kg/10a、散布後5日間は湛水状態]

#### 3) 病虫害防除

##### 【葉いもち病】

オリゼメート等の防除をされていない圃場では、7月中旬又は初発時に「コラトップ  
 粒剤」を散布する等の対策をしてください。

##### 【アワヨトウ】

小麦圃場で発生が見られておりますので、水稻技術情報No9を参考に対応してくだ  
 さい。

##### 【斑点米カメムシの発生】

ヒエやホタルイが残草している圃場では、この後それら雑草の穂に産卵し、圃場内に  
定着することで被害の拡大が懸念されます。残草が多く見られる圃場では、中・後期除  
草剤を散布するなど残草対策をしてください。なお、出穂10~15日前までには畦畔等の  
草刈りを徹底ください。

- ・ヒエのみ……………クリンチャー1<sup>♯</sup>粒剤・EW、ヒエクリーン1<sup>♯</sup>粒剤
- ・ヒエ・ホタルイ混在…レブラス1<sup>♯</sup>粒剤、ワイドショット1<sup>♯</sup>粒剤

※ 圃場でばか苗が見えた場合の抜取りにご協力ください。